平成26年 9 月 18 日

伊予市シティブランド確立業務
フィールドワーク報告書

■開催日時:平成 26 年 9 月 3 日(水)　9 時～17 時
■視察場所:市内全域
■目　　的:ファシリテーターの山内氏と市民が市内を回り、潜在する魅力の発掘と課題を抽出する
■参 加 者:一般市民5人、ファシリテーター1人、アシスタント 1 人、職員2人、スタッフ2人(セキ株式会社)

■当日スケジュール

9:00　市役所集合
1　手づくり交流市場　町家(まちや)
2　JR伊予市駅、伊予鉄郡中港駅
3　五色浜、五色姫海浜公園、萬安港、彩浜館
4　宮内小三郎邸、榮養寺
5　来良夢(こらむ)
6　伊豫岡八幡神社／車内より
7　谷上山(たがみさん)公園、えひめ森林公園、大谷池
8　伊予灘SA(恋人の聖地)
9　今岡御所跡／SAより
10　伊予神社、手間天神宮
11　ウェルピア伊予、下三谷工業団地、鳥ノ木団地周辺新興団地／車内より
12　伊予稲荷神社
13　犬寄峠／車内より
14　山吹神社、源氏集落
15　秦皇山、城址跡、三島神社、ホタル／車内より

12:30　昼食／紅葉野
16　中山特産品センター
17　盛景寺、菩提樹
18　栗の里公園(遊栗館、花の森ホテル、フラワーハウス、野外ステージ)
19　クラフトの里
20　大栄の案山子
21　翠小学校、上灘川のホタル
22　曳坂(ひきざか)、グリーンツーリズム
23　ふたみ潮風ふれあい公園、牛ノ峰パラグライダー基地
24　JR下灘駅
25　下灘漁協(豊田漁港)
26　ふたみシーサイド公園(恋人の聖地)
27　森海岸(扶桑木)
28　しおさい公園(尾崎地区から北山崎小学校に向けての眺望)
29　ヤマキ、マルトモ本社(花かつお通り)／車内より

17:00　帰庁、解散

※数字は訪問順
※「車内より・SAより」は、立ち寄らずに車内またはSAで解説があったところ

9月3日(水)、ファシリテーターの山内氏らと市内の各スポットをめぐるフィールドワークを上記スケジュールで行いました。時間の都合から市内全体を回ることはできませんでしたが、伊予、中山、双海地域をそれぞれ回り、おぼろげながら伊予市のイメージを感じていただけたと思います。なお、案内役としてワークショップ参加者 5 人に同行していただきました。

■フィールドワーク訪問場所

1　手づくり交流市場　町家（まちや）

「町家」は、かつて栄えた旧家をイメージした数奇屋づくりの佇まいを見せる交流施設。農家の方が毎朝出品する新鮮な野菜や果物、季節の花のほか、特産品である海産加工品、鮮魚、お惣菜などが販売されている。

フリーマーケットやミニライブなど、さまざまなイベントが行われる中庭を取り囲むように配置されたテナントは、起業を目指す方のチャレンジショップとなっており、安い家賃で出店経験を積み、事業が軌道に乗ったところで市内に出店していただくことを目的として設置された施設である。

2　JR伊予市駅、伊予鉄郡中港駅

JR伊予市駅

伊予市の中心市街地には、JR予讃線と伊予鉄郡中線が乗り入れており、中でもJR伊予市駅と伊予鉄郡中港駅は、国道を挟んで隣接している。

松山市方面、南予方面それぞれからの鉄道アクセスの良さは、地域活性化に向けての大きなポイントとなりうる。

伊予鉄郡中港駅

3　五色浜、五色姫海浜公園、萬安港、彩浜館

平家の姫が海に身を投じて五色の石になったという伝説が残る五色浜。現在は五色姫海浜公園として、海水浴の人気スポットとなっている。白砂が美しい人工海浜では、ビーチバレーの公式戦が行われるコートがあるほか、秋には伝統行事「観月いもたき」が開催されている。

郡中港は、かつて萬安港と呼ばれ、大洲藩の米や材木等、物産の積み出し港として栄え現在も石灯台が残っている。郡中港を望む松林の中に建てられた彩浜館（改築）は、明治時代には「異人建て」と呼ばれた洋風トラス組みの建物で、日露戦争の最中、松山に収容されていたロシア兵捕虜を郡中町の有志らが接待したほか、伊藤博文が来遊したことで知られている。

五色浜

五色姫海浜公園（人工海浜）

萬安港旧灯台

彩浜館

4　宮内小三郎邸、榮養寺

郡中灘町は、上灘村（現在の双海町上灘）出身の宮内九右衛門・清兵衛兄弟が大洲藩主に海岸の開拓を許されたのが起こりであり、江戸時代に商人によって築かれた全国的にも珍しい町である。

現在も残る宮内家は大洲臥龍院を手がけた名棟梁、中野虎夫の手によるもので、かつては幕府の巡見使の宿所として使われたほか、伊能忠敬測量隊の本陣を務めたという記録が残っている。

宮内邸の程近くにある榮養寺は、宮内家の菩提寺として開基された。大根に含まれる消化酵素「ジアスターゼ」を発見したことで知られる、日本における栄養学の創始者である佐伯矩（さいきただす）博士は、大正7年、それまで「営養」と「栄養」が混在して使用されていた表記を、この寺の山名にちなみ「栄養」と統一して表現するよう文部省に進言し、現在に至っている。栄養寺には佐伯博士自らが揮毫した「栄養」の扁額が残されている。

宮内小三郎邸

榮養寺入口

5　来良夢（こらむ）

明治44年、伊予農業銀行郡中支店として竣工された擬洋風建築の建物。内装は和洋折衷の独特の特徴を有しており、明治期のモダンな雰囲気を今に伝えている。現在は地域住民の強力により、地域の交流施設として整備・活用されている。

6　伊豫岡八幡神社

伊豫岡古墳群

伊豫岡八幡神社は、古代豪族の墓と伝えられる8基の円墳と2基の前方後円墳からなる伊豫岡古墳群の中に築かれており、周辺一帯は100種類以上の自然植物が残る松山平野唯一の自然林として、風致地区に指定されている。

拝殿内には日露戦争から無事帰還した23人の氏子が奉納した日露戦争絵馬がある。一般に勇壮な武者姿などが描かれることの多い絵馬であるが、ここには赤十字の腕章を付けた日本の衛生兵が、捕虜であるロシア人負傷兵を救護する姿が描かれており、彩浜館のエピソードとともに、伊予市民の博愛精神を物語るものとして伝えられている。

7　谷上山（たがみさん）公園、えひめ森林公園、大谷池

谷上山公園展望台からの眺望

谷上山は皿ヶ峰連峰県立公園の西端にあたり、大谷池と併せて四国の自然100選に選定され、特に桜の名所として知られている。展望台からは道後平野が一望できるほか、大谷池と合わせて、県立えひめ森林公園が整備されており、休日はピクニックなどの家族連れでにぎわっている。

谷上山公園展望台

8　伊予灘SA（恋人の聖地）

伊予灘SAからの眺望

松山自動車道伊予灘サービスエリアは、道後平野から瀬戸内海の島々までが一望でき、夜には松山地域一帯の夜景がパノラマ状に見られることで知られている。

恋人の聖地として認定されており、特に週末の夜は多くのカップルで賑わっている。

恋人の聖地の記念碑

9　今岡御所跡

伊予の豪族である河野氏の遠祖である、七代孝霊天皇の皇子、彦狭島命（ひこさじまのみこと:伊予親王）が居住され、その崩御地であると伝えられている。近隣からは、中四国では数例しか出土されていない大和朝廷の古墳からの出土品とほぼ同時代の銅鏡（三角縁神獣鏡）や県内では唯一の筒型銅器、銅矛などが多数出土しており、かつて伊予市が瀬戸内地方の政治・文化の拠点のひとつであったことを物語っている。

10　伊予神社、手間天神宮

伊予神社は全国でも珍しい月の神「月読尊（つくよみのみこと）」と「愛比売命（えひめのみこと）」を祭神としており、石灯籠の上には月の象徴であるウサギを象った石造物がある。境内にあった弥光井神社の湧き水を「いゆ」と呼び、その呼び名が「いよ」と転じて伊豫神社となり、「伊豫國」や「伊豫二名島（四国の旧名）」の呼び名に使われたと伝えられている。また廃藩置県の際には、愛比売命の呼び名から「えひめ」愛媛県という県名がつけられたと「愛媛面影」に記されている。

かつて菅原道真が勅旨として立ち寄ったとされており、参道に「勅旨橋（復元）」が残るほか、その際に仮殿を建てたとされる場所には、現在「手間天神宮」として菅原道真を祭る神社が建立されており、地元住民からは学問の神様として親しまれている。

11　ウェルピア伊予、下三谷工業団地、鳥ノ木団地周辺新興団地

下三谷工業団地

旧厚生省時代に厚生年金休暇センターとして建築されたウェルピア伊予は、厚生年金事業団から伊予市が落札し、伊予市都市総合文化施設としてリニューアルを行った施設。テニスコート、ホテル、レジャープール、公園などが整備され、子供から大人まで楽しめる市内の憩いのスポットとなっている。

ウェルピア伊予の目前に広がる下三谷工業団地は、「農村工業導入法」の制度を利用して開発された工業団地で、伊予市及び周辺部の雇用の受け皿となっている。また、ウェルピア伊予周辺は新興住宅地として近年開発が進んでおり、市内の若者及び近隣市町からの移住者の重要な受け入れ先になっている。

12　伊予稲荷神社

伊予稲荷神社は、山城国伏見稲荷神社を勧請したとされ、伊予の豪族であった河野家が祈願所として厚く崇拝した。享和2年には最高の神社である正一位の勅許を受け、地域の総鎮守として祭られている。赤鳥居の先にある楼門は、和様と唐様の折衷様式で愛媛県の重要文化財に指定されている。

境内深くにある赤鳥居の立ち並ぶ九美社は、さながら伏見稲荷を髣髴とさせ、同じく境内にある宝物館には多くの文化財が収蔵されている。

13　犬寄峠

犬寄峠は、松山藩と大洲藩をつなぐ交通の難所とされ、多くの人命が失われたことから、多くの伝説が残されている。その中でも何百匹もの山犬が飛脚を襲ったとされる伝説から、「犬寄峠」の名が残ったとされている。

14　山吹神社、源氏集落

木曽義仲の側室であった山吹御前は、かつて伊予守であった義仲の縁者を頼って伊予に逃れたが疲労で死亡し、亡骸を双海地域から現在の佐礼谷地区日浦集落までい、笹の船に乗せてきたところで地元の人々に手厚く葬られた。その後地域の有志により、山吹御前を偲んで山吹神社が建立された。この本殿は、長州大工・門井宗吉の手によるもので、他に類を見ない立派な彫刻が施されている。

また、近隣には「源氏」という集落名が残されている通り、源氏ゆかりの地とされており、平家落人の伝説が多い四国の山間部において、山吹御前の伝承を裏付ける証拠の一つとなっている。

15　秦皇山、城址跡、三島神社、ホタル

標高 873.6mの秦皇山は、頂上付近に展望台や宿泊ロッジ、バーベキューハウスなどを持つ滞在型観光施設があり、展望台からは松山市、大洲市付近まで広く見渡すことのできる 360 度のパノラマが広がる。山頂にある 12 面観音像は、近くにある水場とともに伝説が残っており、地元に多くの信仰者を持ち、毎年4月と8月の2回、盛大な縁日が執り行われる。

中山地域は中世戦国時代、土佐の長宗我部勢力から大洲、松山を守るための天然の要害の役割を持っており、山頂に山城や砦の跡が多く残されているほか、それらにちなむ数多くの伝説が残っている地域である。

また、現在の今治市大三島にある大山祇神社を開祖とする「三島神社」が多く現存する。これは当時、源頼朝らを初めとする多くの武家豪族が、大山祇神社に戦勝祈願を行っていたことに因むとされており、この地が戦略上の要所であったことを物語っている。

深い山から染み出す水は清流となり、初夏には多くの川でホタルの乱舞を見ることができる。これらホタルは、高度経済成長期の河川改良や水質の悪化により、一時その数を激減させていたが、地元有志の献身的な復活活動と地域住民の環境改善の取り組みにより、現在復活したものである。

秦皇山森林公園

永田三島神社（中山町東町）

藤縄之森三島神社（中山町永木）

烏帽子之森三島神社（中山町栗田）

ホタル

16　中山特産品センター

JR中山駅前にある中山特産品センターは、地域の新鮮な野菜や郷土のお惣菜が毎朝届けられる産直市「ふるさと市」が設置されているほか、施設内では多くの地元特産品やお土産が販売されている。栗の時期には焼き栗の実演販売を行うことで知られているほか、ふるさとを離れた親戚や都会で暮らす知人に名産の栗を送る方でにぎわっている。

17　盛景寺、菩提樹

盛景寺は天平 13 年（741 年）、行基大僧正が開創した臨済宗妙心寺派の寺であり、この一帯の地域に「門前」という地域名が残っていることからも、昔から地域住民に信仰されてきたことが分かる。明治 30 年、棟梁・門井宗吉、門井友祐らによって改築された本堂には、精緻な彫刻が残されている。

裏手には建長 6 年（1254 年）、法灯国師が宋国から持ち帰って手植えしたと伝えられる菩提樹があり、その樹齢は 700 年余りと伝えられ、現在は県の天然記念物に指定されている。

中山地域はかつて大洲藩主が参勤交代等のために伊予・松山方面に出て行く際に宿泊したほか、商人などが宿泊した宿場町としても栄えており、当時大洲藩主の脇本陣として利用された家屋が残されている。

菩提樹

18　栗の里公園（遊栗館、花の森ホテル、フラワーハウス、野外ステージ）

栗の里公園は、中山地域の特産品「中山栗」をテーマとした野外公園で、季節の特産品や郷土料理を楽しめるお食事処「遊栗館」や都市部と地元住民の交流拠点である「花の森ホテル」、亜熱帯の植物を栽培・販売するほか、カフェやミニコンサートなどのイベントが行われる「フラワーハウス」、毎年9月に「中山栗まつり」が行われ多くの来客でにぎわう「野外ステージ」など、多くの施設が整備されている。

遊栗館

フラワーハウス

野外ステージ

19　クラフトの里

クラフトの里は、特産品や旬の野菜を販売する産直市、観光案内所、シャーベットハウス、そばうち道場（食事処）、木工加工場などが入る複合施設となっているほか、近隣にあるイチゴ狩りを紹介している。中でも地元の季節の果物を用いたシャーベットやアイスクリームを販売するシャーベットハウス、地元産のそば粉を用いたそばうち体験や食事が楽しめる「こねこね亭」は人気の施設である。

20　大栄の案山子

翠地区の大栄集落では、地元住民が手作りの案山子を作成・展示し、通行する人の目を楽しませている。もともと集落の人口が徐々に減っていくことを残念に思う地元有志が、地域に賑わいを取り戻すことと、中山方面に道路が整備され、スピードを出す車に対する交通安全啓発のために始めた取り組みであるが、いつからか折々の旬の人物やキャラクターなどがモチーフとなり、通行人を楽しませている。最近では、NHKドラマ「あまちゃん」、スキージャンプ「高梨沙羅選手」、伊予市のゆるキャラ「ミカンまる」などが作られている。

21　翠小学校、上灘川のホタル

翠小学校は昭和7年に落成、赤い屋根と中央2階に突き出た校長室がモダンな雰囲気を醸し出している。現在も当時の面影のまま使用されており、「県内最古の現役木造校舎」として知られている。近年、老朽化が進んでいたが、全面的な建て替えではなく、できるだけ躯体を残してリフォームする「エコ改修」が行われ、通学する児童はもちろん、地域住民の心のよりどころとなっている。伊予市では唯一の「校区外通学」が認められた小学校であり、校区の外から通学する児童のほか、校区外通学がきっかけで翠地区に移住する家族も見られ、地域外交流の拠点としても注目されている。

翠小学校の前を流れる上灘川は、ホタルの名所として知られ、毎年翠小学校の校庭を会場に、ほたるまつりが行われているが、これらのホタルも中山町の例と同様、高度経済成長期の河川改良や水質の悪化により、一時その数を激減させていたが、地元有志の献身的な復活活動と地域住民の環境改善の取り組みにより、現在復活したものである。

22　曳坂（ひきざか）、グリーンツーリズム

三島の大栄口から東峰を結ぶ約2km の山道を曳坂（ひきざか）という。木曽義仲の側室であった山吹御前は、頼朝軍の追っ手から逃れて従者たちと灘浦（上灘）に上陸したところで力尽きた。従者たちは笹で編んだ曳舟に亡骸を乗せて中山方面に逃れたことから、この坂を曳坂と呼ぶようになったと伝えられている。

翠地区をはじめとして双海町一帯では近年、地域住民が都市からの観光客を迎え入れる着地型観光を進めており、イチゴ狩り、ピザ焼き体験、コンニャク作り、じゃこ天づくりなど、豊富なメニューが用意されたグリーンツツーリズムが積極的に行われている。

23　ふたみ潮風ふれあい公園、牛ノ峰パラグライダー基地

JR上灘駅の山手にある「ふたみ潮風ふれあい公園」は、宿泊施設やテニスコート、芝スキー場、サッカー公式戦が可能な多目的広場などがある公園で、地域住民はもちろん、多くの人々の憩いの場となっている。目の前に広がる伊予灘のパノラマ風景は、特に夕暮れのロケーションが素晴らしい。

公園から見上げる牛ノ峰の山頂にあるパラグライダー基地は、県下では最高の基地として愛好家たちに賞賛されており、数多くの愛好家たちが瀬戸内海に向って舞い上がる姿を見ることができる。

24　JR下灘駅

夕日鑑賞の名所として知られるJR下灘駅は、JRが発行する「青春18キップ」のキャンペーンポスターとして3回も取り上げられたほか、「男はつらいよ」「HERO」など人気映画の撮影にも使われたことで多くの観光客が訪れる人気スポットにもなっている。毎年秋にプラットホームをステージに見立てた「夕焼けプラットホームコンサート」が行われるほか、水平線に沈む夕日を写真に収めようとカメラ愛好家にも人気がある。

25　下灘漁協（豊田漁港）

下灘串集落にある豊田漁港は、全国でも有数のハモの水揚げ量を誇るほか、タイ、ブリなどを多く扱う。水揚げされた魚の多くは生きたままセリにかけられ、活魚トラックで京阪神地方に送られるが、京阪神での翌朝のセリに合わせて、全国でも珍しい夕方3時からのセリが行われている。

26　ふたみシーサイド公園（恋人の聖地）

「しずむ夕日が立ち止まる町」をテーマとした町づくりの一環として整備されたふたみシーサイド公園は、国土交通省から「道の駅」の認定を受け、その利便性の良さからドライブの休憩スポットとして人気がある。目の前に広がる水平線と「日本の夕陽 100 選」にも選定された美しい夕日を鑑賞できることから、デートスポットとしても人気があり、「恋人の聖地」にも認定されている。

27　森海岸（扶桑木）

森海岸は約 1800mにわたって断層が露出している海岸で、シジミやタニシなど多くの貝類の化石が発見されていることから、生物学・地質学上、大変貴重な場所とされている。中でも「扶桑木」と呼ばれ県の天然記念物に指定されているメタセコイヤなど古代植物の化石は学術上、大変貴重なものとされる。

またこの地域には、かつて「日をさえぎるほどの大木群」があり、困った九州の人達が切らせてくれと頼みに来たという伝説が残っている。

28　しおさい公園（尾崎地区から北山崎小学校に向けての眺望）

しおさい公園はスポーツと憩いの場を兼ねた総合公園で、公園内には体育館、野球場、競技場、テニスコート、遊具などがある。またワークショップの参加者より、尾崎地区から北山崎小学校に向けての眺望が素晴らしいと推薦があった。

29　ヤマキ、マルトモ本社（花かつお通り）

伊予市は近代より鰹節、削り節の生産が盛んで、現在も削り節の生産量は日本一を誇っている。日本でも有数の鰹節・削り節メーカーであるヤマキ、マルトモの両本社工場が隣り合わせて建っている通りは、「花かつお通り」の愛称で親しまれている。